

# 石川博一「写真紀行」のお知らせ

石川博一（いしかわひろかず）・・・1938年4月東京・旧芝区田村町生まれ

本州製紙（現・王子製紙）に勤める傍ら、幼少の頃にカメラを入手して以来写真を撮り続けた。

ある時中国からの留学生との出会いから、中国の壮大な文化遺産に魅了され、数々の世界文化遺産を撮影するようになった。数々の写真が学校の教科書を始め、旅行会社のパンフレットや新聞広告などに使用されている。また、弊社出版作品の表紙や挿し絵「写真」などにも協力していただいています。今回は、その貴重な写真のコレクションの中から数点を抜粋し公開します。

なお、写真の使用希望がある場合は右文書院 03-3292-0460 までご連絡ください。



トルコ・エフェス



シリア・パルミラ遺蹟



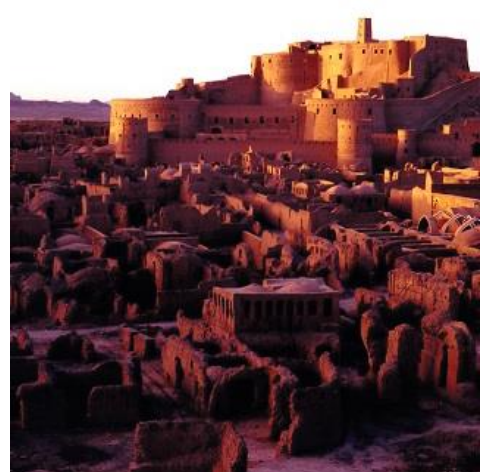
シリア・パルミラ遺蹟



カナダ・ナイアガラの滝



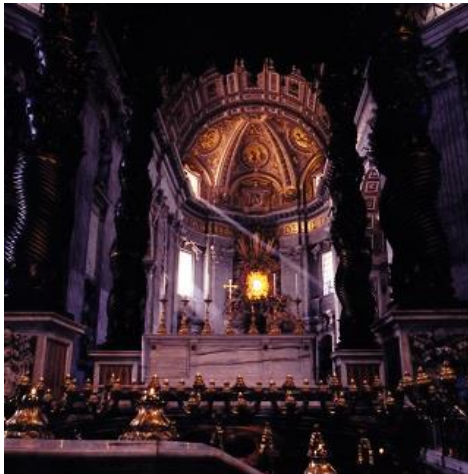
イタリア・コロッセオ



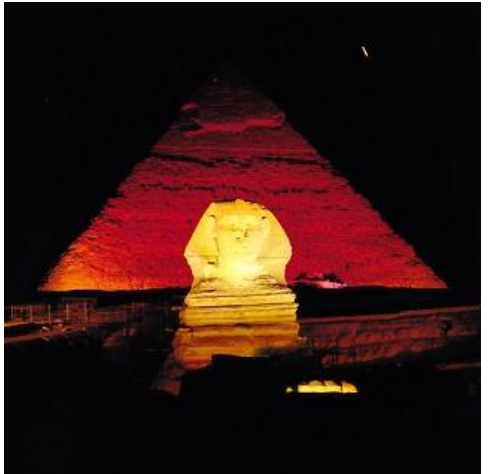
イラン・バム遺蹟



ペルー/マチュピチュ



イタリア・サンピエトロ寺院



エジプト・ピラミッドとスフィンクス





エジプト/ツタンカーメンマスク



イタリア・ベネチア



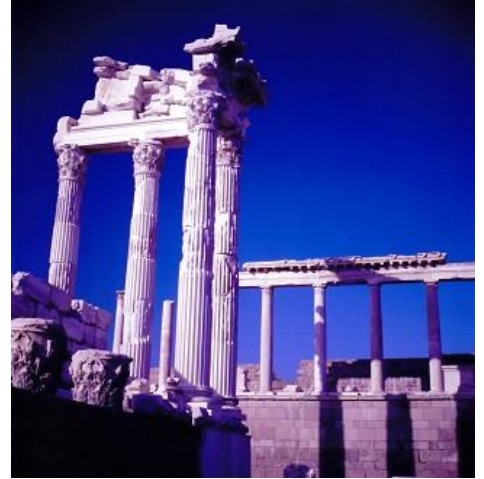
イタリア・ドゥオーモ



チリ・イースター島・モアイ

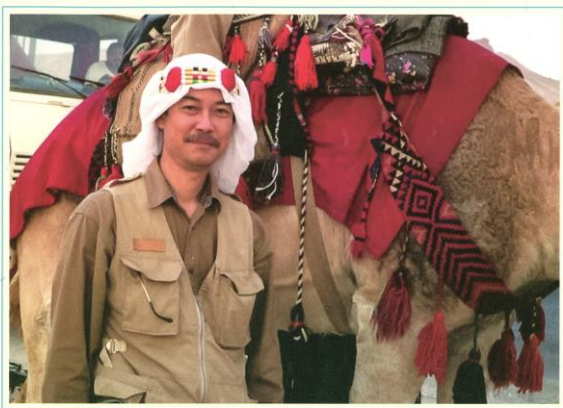


ギリシャ・ゼウス神殿



トルコ・ベルガマ

Ishikawa Hirokazu



# 石川 博一 写真紀行

Photo travelogue

写真の撮影は外から見るほど楽ではありません。特に遺跡となると、交通手段もままならない砂漠の中や辺境の地が多く、体力と忍耐（がまん）が必要になるのです。（経験談）



日本・巾着田



中国・九寨溝

写真のテーマとしての遺跡の魅力は、数百年前、数千年もの昔、時の権力と財力そして英知の全てを終結して作り上げた壮大な文化遺産が訴えかけてくるものにある。

それは栄耀栄華を極めた都市も、時の流れの中で現在私たちの目に映る姿は、辺境の地にある単なる石ころか土のかたまりにすぎない。

しかし茫洋とした遺跡の静寂の中に一人佇んだとき、突然、数百年、数千年を一気にタイムスリップしたような錯覚に陥る。その光景は私の脳裏に刻み込まれ、その余韻のさめやらぬ中で写真撮影が始まる。

写真のデータの魅力というよりは、遺蹟そのものの魅力に引きこまれるのである。